

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 体育学部、体育学研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

鹿屋体育大学

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
体育学部、体育学研究科	【2】	相応の質にある	【3】	高い質にある

1. 体育学部、体育学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 5)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 鹿屋体育大学の特性を活かした独自の研究プロジェクトとして、トップアスリートの育成・強化を目的とする「Top Athlete Support System (TASS) プロジェクト」、地域における健康の維持増進、生活習慣病予防等に関する「Promotion of Active Life Style (PALS) プロジェクト」に加え、平成29年度からは各種スポーツイベント等における地域活性化に関する「Community Activation through Sporting Events (CASE) プロジェクト」を新たに設置し、平成28～令和元年度には、学内の審査を経た TASS プロジェクト24件、PALS プロジェクト4件、CASE プロジェクト6件について支援を行った。
- 平成28～令和元年度の4年間にわたり地元の民間企業から受け入れた寄附金を活用し、鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス研究や貯筋運動研究の推進などの支援を目的とする寄附研究講座を開設した。
- プロスポーツ選手等の合宿を誘致し、スポーツを通じた交流による地域活性化を図るため、鹿屋市と連携・協力し、「スポーツ合宿まちづくり推進事業」を実施している。本事業の一環として、鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス研究センターにおいて、平成28～令和元年度に計325名（年度平均約81名）のアスリートのパフォーマンス測定を実施し、測定したデータを本人にフィードバックするとともに研究データとして蓄積した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、6件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「スプリント走の加速メカニズムに関するバイオメカニクス研究」及び「遺伝子タイプが身体パフォーマンスや傷害に与える影響に関する研究」は、学術的に卓越している研究業績である。